Braintech Library Report

ブレインテック・ライブラリー・リポート

Vol.1

公益財団法人大倉精神文化研究所附属図書館（大倉山記念館）

80年以上の歴史的な建物と蔵書「情報館」で貴重資料の全容が明らかに

公益財団法人大倉精神文化研究所附属図書館

英語や保育の授業、他部署と連携して必要な情報と「出会える」図書館

沖縄キリスト教学院図書館

図書館のブックカバーが面白い！

Jcross コレクションリポート

株式会社ブレインテック
since 1983

80年以上の歴史的な建物と蔵書
「情報館」で貴重資料の全容が明らかに

公益財団法人大倉精神文化研究所附属図書館

横浜市にある公益財団法人大倉精神文化研究所は、1932年、実業家の大倉邦彦氏によって設立されました。目的は東洋、西洋の文化の良さを学び、人材育成に活用すること。附属図書館は同時にオープンした精神文化の専門図書館です。開館から80年余り、今も一般公開され、多くの人に東西の精神文化の貴重な知識を提供しています。

貴重コレクション

公益財団法人
大倉精神文化研究所附属図書館
〒222-0037
神奈川県横浜市港北区大倉山2-10-1
TEL：045-834-6636（図書館直通）
http://www.okuraken.or.jp/

建物は市の指定有形文化財

東急東横線大倉山駅から歩いて数分、木立の中に見えてくる洋館が、大倉精神文化研究所の建物です（現、横浜市大倉山記念館）。竣工は1932年。築80年以上たっているとは思えない美しいギリシャ神殿風の外観が目をひきます。1991年には横浜市の指定有形文化財にも指定されています。

「建物だけでなく、机やベンチなど、開館当初からある什器も多くが現役で使われています」

そう教えてくれたのは、大倉精神文化研究所の図書館運営部長で研究部長も兼務する平井誠二さん。

「図書館で使っている書庫は５層式の積層書架になっています。壁には図書運搬用の電動式リフトが設けられ、湿気を防ぐ送風装置までありました。当時は最先端設備を備えた施設だったんです」

大倉邦彦氏が私財を投じて建てたという想いが伝わってくる図書館です。

図書館入口

10万冊の蔵書には貴重な資料も

建物に入ると右側が附属図書館になっています。カウンターと閲覧用のテーブルを設置した部屋があり、その奥が書庫。５層のうち１層目の半分が公開書庫になっています。

蔵書は、哲学、宗教、歴史、文学を中心に約10万冊。６万冊が一般図書で、そのうち約２万冊が公開書庫に配架されています。

沿革史資料

残りの４万冊が、附属図書館が誇る貴重コレクション。古文書をはじめとする和装本や研究所の開設に先立ち昭和初期に欧州で購入された洋書、大倉氏と親交のあった著名人より寄贈されたものなど、多岐にわたっています。

インドの文学者、思想家、芸術家であるラビンドラナート・タゴール氏寄贈の「タゴール文庫」159冊、岩波書店創業者の岩波茂雄氏による寄贈本523冊など、多くの資料が館内で閲覧できます。

「書庫には蔵書のほかに研究所沿革史資料もあり、その一部が建物同様、横浜市指定有形文化財に指定されているんです」

話してくれたのは、附属図書館司書の佐藤多美子さんです。研究所沿革史資料とは、大倉精神文化研究所の設立準備から今日までの活動記録や寄贈図書目録、事務資料など。「その中の、建物建設に関わる設計図面、注文書、会計帳簿などは、80年前の建築を知るうえで貴重な資料とされています」

これらの指定文化財に指定された資料も館内で閲覧することができます。

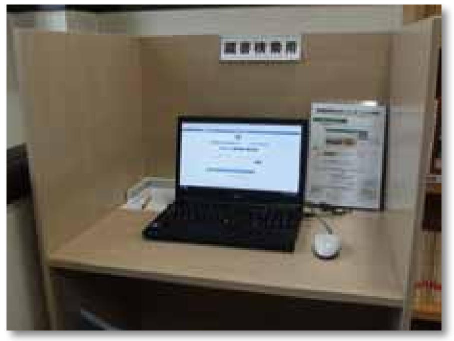
「情報館」導入で利用登録者が２倍に

附属図書館が一般図書にNDC分類を導入したのが1988年。まずは新規受け入れの公開図書から始め、1995年頃には閉架図書にも広げていきました。

「2000年くらいからシステム導入の検討はしてきたのですが、この図書館にあったシステムにめぐり会えず、なかなか進みませんでした」と、平井さんは言います。「2012年に図書館総合展で『**情報館**』に出会い、詳細に検討して導入を決意しました」

実際に「**情報館**」を導入したのは2013年の夏。決め手になったのは、コストパフォーマンスのよさとNDC以外の独自分類が使用できることだと言います。

「一般公開を予定より早めたので、データ入力やシステム化は大変でしたが、導入のメリットはすぐに実感できました」と、佐藤さん。「第一にカード管理では不十分だった蔵書状況を把握できたこと。そして、貴重コレクションのすべての種類と内容も初めて確認できました」



蔵書検索コーナー

第二閲覧室

利用しやすくなったことで、利用登録者も２倍に増え、貴重コレクションの利用も増えたそうです。

そして意外な効果としては、スタッフの意識が変わってきたと言います。伝統を重んじるだけでなく、「より多くの人に利用してもらうにはどうしたらよいのか」を一人ひとりが提案して行動するようになったとか。

今では図書館のWebサイトからも蔵書検索ができるようになり、いっそう利用しやすくなった附属図書館。研究所のイベントとも連動して独自の企画展を開催したり、Twitterで最新情報を流したり、情報発信を積極的に行っています。

システム構成	基本システム２台（ネットワーク）、OPACサービス（プレミアム版）（外部公開）
蔵書数	一般図書約６万冊、貴重コレクション約４万冊、雑誌860タイトル（約５万冊）、沿革史資料約７万点
導入年	2013年

データは2016年10月現在のものです

英語や保育の授業、他部署と連携して必要な情報と「出会える」図書館

沖縄キリスト教学院図書館

沖縄がアメリカの占領下にあった1957年、沖縄キリスト教団によって沖縄キリスト教学院が創設されました。1972年に沖縄が日本に返還されると、沖縄キリスト教短期大学として認定を受けています。現在は大学、短大、大学院合わせて900名が在籍しており、キリスト教を建学の精神とし国際的に活躍できる人材を輩出しています。

建学の精神にのっとった図書館運営

「『キリスト教』『平和』『沖縄』。本学の建学の精神はこの３つのキーワードからなっています」

沖縄キリスト教学院図書館館長の内間清晴さんが語ってくれました。

「図書館もこの精神にのっとった運営を行なっています。それを地域に発信するために、図書館主催の講演会を開いているんです」

2010年に行われた第１回のテーマは「戦争と教育」。その後、講演会は沖縄戦トラウマによるストレス症候群、三浦綾子文学、沖縄と憲法など、毎年テーマを変えて開催しており、地域の方々には毎回大好評だそうです。

他府県で行われる学会などで大学に行ったときには、できるだけ図書館を訪ねるようにしているという内間さん。

「沖縄県内の大学の図書館にはそれぞれ特色があり、本学は沖縄とキリスト教関連の資料収集に力を入れる必要性を感じています」

2013年には「貴重書室」を設置。これまで収集してきたキリスト教関連の貴重書やコレクションを展示しています。

学科の学習に役立つコーナーを設置

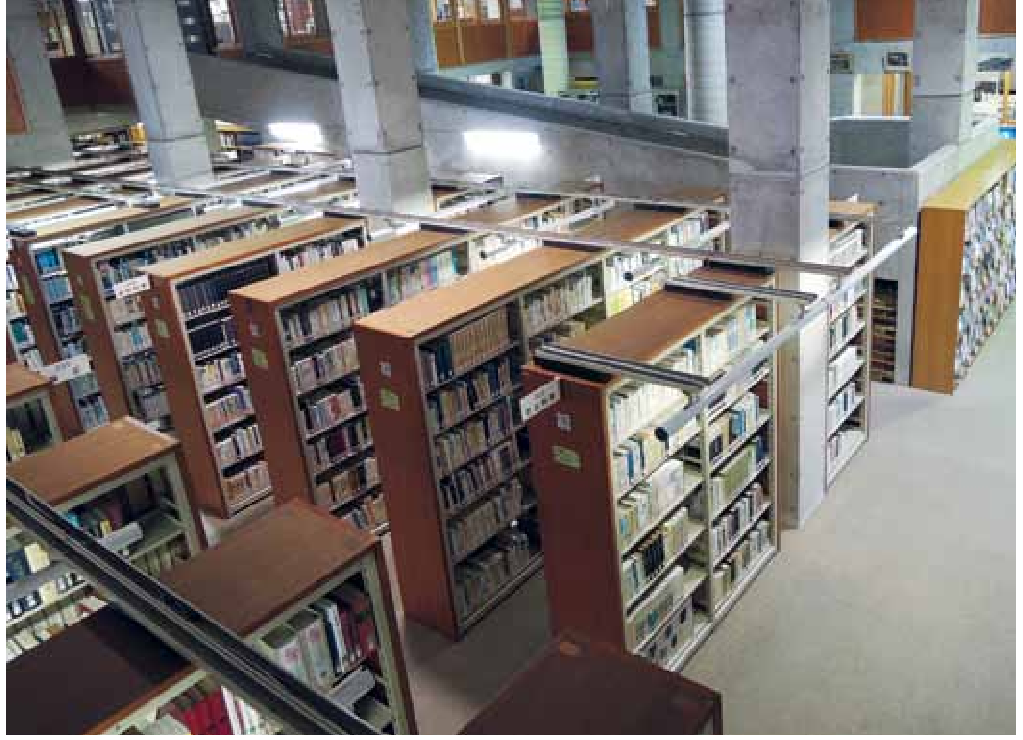
同学院には現在、大学（人文学部英語コミュニケーション学科）、短大（英語科、保育科）、大学院（異文化コミュニケーション学研究科）があります。所蔵する図書10万冊、雑誌146タイトルは、各学科で学ぶ内容を反映して、英語関係、保育・幼児教育関係、キリスト教関係を中心に構成されています。

「必要なタイミングで、必要な情報と出会える場として、図書館を利用してほしいと考えています」

そう話してくれたのは、司書の真栄田美奈さん（現在はキャリア支援課）。

「館内では、学科ごとに役立つコーナーを設置したり、毎月テーマを決めて図書館フェアを開催したりするなど、学生の満足度を高める取り組みを行っています」

「英語多読図書コーナー」には、英語コミュニケーション



沖縄キリスト教学院図書館
〒903-0207
沖縄県中頭郡西原町字翁長777
TEL:098-946-1236
http://www.ocjc.ac.jp/library/lib.html

学科や英語科の授業と連動した約7000冊、保育科の学生のための「絵本コーナー」では、約3700冊を開架しています。

「『日英翻訳図書コーナー』は学生へのレファレンスをきっかけに設置しました。日本語資料とその英訳資料をセットで配架し、学習で利用しやすくなっています」（真栄田さん）

図書館フェアでも小説フェア、日英翻訳図書フェア、クリスマス絵本フェアなどで、学生自身が推薦した図書が手書きPOPとともに展示されており、学生の声を生かした図書館づくりが特徴的です。

授業だけでなく、キャリア支援課などの部署との連携も図書館の大切な役割になっていると、図書課長の仲間末美さんが教えてくれました。

「『キャリア・資格関連図書コーナー』には就職関連の図書が開架されている他、就職活動の流れや資格試験のスケジュールなどの掲示も行っています」

学生からの質問に対して、キャリア支援課からのアドバイスや図書館からのお勧め図書などが貼り出され、ここも学生にとっての「出会いの場」となっているようです。

フェアの効果をシステムで確認できる

以前は、図書館フェアはどう活用されたのか確認する間もなく次のフェアへ、という状態でしたが、**「情報館」**を導入して、フェアの検証ができるようになったそうです。

「2015年春の図書フェアでは、184冊の就職・資格関連本を展示しましたが、その７割以上が貸し出されていることがわかりました。いろいろな項目を出力できるよう設定ができる『**情報館**』のおかげで、すぐにフェアの効果が確認できるようになり、授業との連動もより緊密にできるようになりました」（真栄田さん）

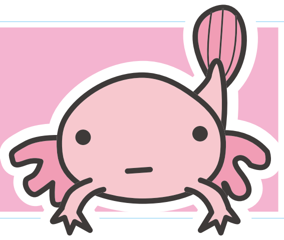
「学生と近い図書館」というのが、沖縄キリスト教学院図書館の特徴といえるでしょう。話をうかがった３名も「決して大きな大学ではないので学生一人ひとりに目が届きやすい」と口をそろえます。学生との距離を縮め、学生の満足度を高めるのに、『**情報館**』も役立っているようです。

システム構成	基本システム5台、館内用OPAC 2台（ネットワーク）、WebOPAC（外部公開）、CAT 5台、ILL 1台
蔵書数	図書約10万冊、雑誌146タイトル、視聴覚資料約3,000件
導入年	1997年

データは2016年10月現在のものです

Jcross コレクション リポート

図書館のブックカバーが面白い！



（株）ブレインテックが運営するJcrossの人気コーナー「コレクション」から、「図書館のブックカバー」をご紹介します。

http://www.jcross.com/collection/cat-7/post-14.html

まず1つ目は、比治山大学図書館様の「コラージュ」というブックカバーです。図書館が実施したオリジナルブックカバーの募集企画で学生の応募作品の中から選ばれたものの一つ。紙や布地、絆創膏など色々な素材感が楽しめるオシャレなデザインで、学生さんに人気なのも納得です。このような、利用者参加型のブックカバーは大学図書館などが配布しているものに多く見られ、1つ1つが「作品」といえるほど完成度のものが多いのも特徴です。

http://www.jcross.com/collection/cat-7/post_147.html

続いては、国立国会図書館関西館の「れはっちブックカバー（月替わり）」です。同館が運営する「レファレンス協同データベース」のイメージキャラクター「れはっち」をデザインしたブックカバーで、1月は凧揚げ、8月は海水浴、12月は討ち入りといったように季節（月）ごとに異なるデザインが用意されています。このような図書館のキャラクターをデザインに使ったブックカバーは館種を問わずたくさんの図書館で提供されていますが、こちらの特徴は裏面にもデザインがあることで、レファレンス協同データベースの概要や問合せ先などが掲載されています。表面でキャラクターを楽しんでもらいつつ、裏面でサービスの宣伝をしている欲張りなタイプのブックカバーと言えます。ダウンロードページには「ブックカバーの作り方」という丁寧な説明もあり、提供方法としても大変親切な例です。

http://www.jcross.com/collection/cat-7/post-8.html

3つめは東洋大学附属図書館の「ブックカバー（The Wizard of OZ）」です。これは同館が所蔵する貴重書の挿絵等を使ったブックカバー 8種のうちの一つ。こうした図書館の所蔵資料をデザインに用いたタイプは、大学図書館などに多いようです。クラシックな挿絵なので高級感のあるブックカバーという印象を受けます。折り位置の目安となるガイド線がついているのも便利ですね。

今回ご紹介したものは、サイトに掲載しているブックカバーのほんの一部です。ブックカバーは紙とプリンターがあれば作れる手軽なノベルティグッズとして様々な図書館で作成・配布されていて、しおりとブックカバーをお揃いのデザインで配布している例などもあるようです。皆さまの図書館でも参考にして頂ければと思います。

Jcrossとは

（株）ブレインテックが運営する、図書館と図書館にかかわる人たちを応援する情報サイトです（http://www.jcross.com/）。図書館のブックカバー、しおり、図書館便り、テーマ展示の写真などを集めてご紹介するコレクションコーナーでは、掲載アイテムを常時募集しています。

★ ウパっちブックカバー配布中 ★

今回ご紹介した「ブックカバー」コレクションに合わせて、Jcrossでもマスコットキャラクター「ウパっち」のブックカバーを作りました。
▼こちらからダウンロードできます
http://www.jcross.com/jcross.html#dl

図書管理システム
情報館 ver.8

中小規模の図書館に最適な
ベストセラー図書館システム

導入してからも、二人三脚で。

✔ メーカーの直接サポートだから迅速対応
開発元で、図書館システムの専門メーカーである（株）ブレインテックが直接サポートサービスを行うので、対応が迅速。
お問い合わせやトラブル発生連絡受付後の初動対応の迅速さは、多くのユーザー様からご評価いただいています。

✔ データのインポート・エクスポートが自在
システムで管理しているほとんどすべてのデータ（資料データ、利用者データ、各種マスタデータ等）がアプリケーション上で自由にテキスト形式でインポート・エクスポートできます。
また、統計・帳票データのエクスポートも可能です。

✔ シンプルで安定したシステム
全国の中・小規模図書館で選ばれている「情報館」は、安定稼働にも定評があります。さらに、専用のバックアップツールだ無くても簡単にデータのバックアップができ、万が一の復旧も容易で迅速です。

✔ 時代に合わせたバージョンアップ
図書館システムの導入は、ゴールではなくスタートです。5年後、10年後も安心して快適にご利用いただけるように、新OSへの対応やユーザー様からの要望を取り入れたバージョンアップを定期的にご提供しています。

OPAC公開を手軽に、簡単に

✔ 選べるOPAC
情報館のOPACは、サーバー設置型とクラウド型のどちらでもお客様に合ったものをお選びいただけます。

✔ 小規模図書館でも安心
クラウド型なら、サーバー不要。
システム担当者が常駐していない小規模図書館様でも、安心してOPAC公開が可能です。

OPAC と合わせて使いたい
スマホ・タブレットを活用した情報ナビゲーションサービス

カーリル™タッチ！（大学版）

「カーリルタッチ（大学版）」は、キャンパス内の各所に設置したタッチタグ（キーワードの書かれたICタグ付プレート）にスマートフォンでタッチするだけで、関連する図書館の資料、調べ方案内などにダイレクトにアクセスできる新しいサービスです。「情報館」のOPACとの連携も可能。御見積・トライアル随時受付中。

対応済み連携データベース
・ブレインテック製OPAC
・CiNii Books／CiNii Articles
・Google Books
・雑誌記事索引（NDL）
・レファレンス協同データベース（NDL）
・リサーチ・ナビ（NDL）[調べ方案内]
・ジャパンナレッジ[辞書・辞典]
・Wikipedia[キーワード解説]

Jcross

図書館と図書館に
かかわる人たちのサイト

http://www.jcross.com/

コレクションコーナー
「しおり」「ブックカバー」
「ライブラリー・ナビ」
「図書館便り」etc. 募集中！

●なかの人たち

図書館員インタビュー

●ウパっちのお仕事見学

図書館関連企業取材記

●専門図書館見学記

●コレクション

図書館のアイテム紹介

- 図書館便り
- 図書館のしおり
- 図書館のブックカバー
- ライブラリー・ナビ
- 図書館のテーマ展示写真

etc.

図書館システムにご興味のある方は弊社ショールームにお越しください

～ 情報館オープンデーのご案内 ～

毎月１回、「情報館」や「カーリルタッチ」などの
最新の図書館システムの体験をすることができる
展示会形式のイベントを開催しています
https://braintech.co.jp/event/openday

ブレインテック・ライブラリー・リポート　Vol.1

発行日／ 2016年11月1日

発行元／株式会社ブレインテック

〒141-0022 東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル 3F

TEL.03-3449-7261　https://braintech.co.jp/

本誌に関するお問い合わせは（株）ブレインテック 広報グループ（TEL 03-3449-7261 ／ E-mail publicity@braintech.co.jp）まで